

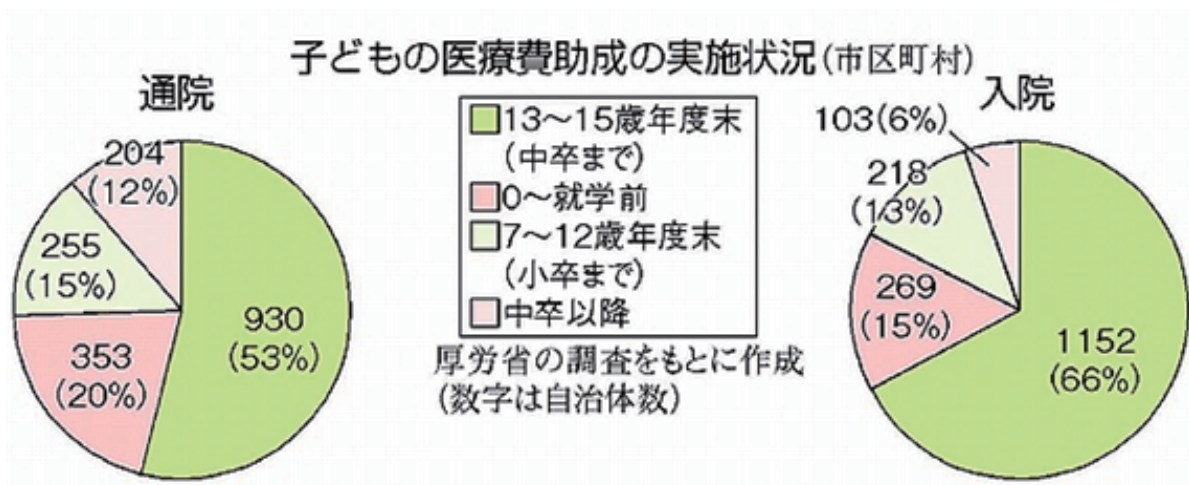
週刊

# こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎(752)0453 植田 進 ☎(487)9754  
いはら 忠 ☎(488)7207

発行  
日本共産党  
八千代市議会議員団  
八千代市大和田新田  
312-5  
☎(483)1151

## 子どもの医療費無料化と国のペナルティ



子どもの医療費助成は昨年の4月現在で、全国すべての自治体が実施しています。(上記の表は2014年4月現在のもの)

昨年8月から八千代市は、通院や調剤についても中学卒業まで無料となりました。しかし、今では中学卒業以上(中卒と中卒以降)まで通院が無料となっている自治体は65%と半数を超えています。入院については72%とさらに広がりを見せています。(中学卒業以降まで行っている自治体は通院で12%と1割を超え、入院では6%の自治体が行っている)

## 高校卒業まで医療費助成が必要です

昨年の8月から中学卒業まで医療費助成が拡大されたことで、八千代市の保護者からは喜びの声が寄せられています。その一方で、なぜ中学卒業以降(高校生)まで医療費助成を行う必要があるのか?との疑問も寄せられています。

今や高校進学率90%以上となっている現状からもわかるように、高校卒業まで子どもの健康管理に保護者は気を配っています。さらには部活動などでケガをしてくることも多いとの声は中学同様に上がってきています。

裏面に続く→

# 子ども医療費を実施している自治体に国のペナルティ

ところがこうした自治体独自の取り組みに国は、「医療費が増大するため公平な財源配分の観点から、増加した医療費分を減額する」（2月18日）と公言。自治体に対し、国民健康保険への国庫補助を削減するペナルティを科しています。この国の現状を明るみにして追及しているのは日本共産党だけです。

昨年9月の八千代市議会で、「子どもの医療費助成に対する補助金の削減をやめるよう」意見書を提出しました。賛成したのは日本共産党以外、現議員で4名（奥山、原、橋本、松崎）だけです。

ところが国は、2014年度補正に盛り込まれた「地域住民生活等緊急支援交付金」の少子化対策の一環として医療費助成を行った場合はペナルティには科さないとしています（3月27日）。同じ医療費助成なのに一方にだけペナルティを科すのは道理が通りません。

## 国の責任で子ども医療費無料化を 市は高校卒業まで年齢の拡充を

子育てしやすい八千代市をめざして、市民のみなさんの声を聞き国にもしっかりと意見を言える日本共産党市議団です。6月議会では、国の責任で子ども医療費無料化の創設をし、ペナルティを無くすよう求める意見書を提出するとともに、高校卒業まで年齢の拡充を早期実現するように質問いたします。